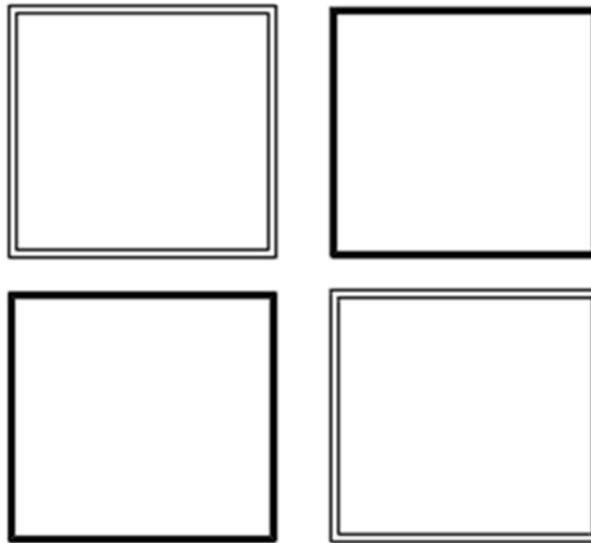


# 令和4年度年間指導計画

(2年生用シラバス)



富山県立高岡工芸高等学校



令和4年度年間指導計画（シラバス）									
教科名	国語	科目名	国語総合	教科書	新編国語総合 (2 東書国総 332)	学年組	第2学年 21H～25H	単位数	2
年間目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めさせる。</li> <li>思考力を伸ばし心情を豊かにし、言語感覚を磨かせる。</li> <li>言語文化に対する関心を深め、現代の文章や古典を読み、読書に親しむ態度を身につけさせる。</li> </ul>								

1 学期				
月	学習項目 (単元名)	学習のねらい (内容)	評価方法	考查範囲
4	詩 言葉がひらく世界 「空をかついで」 「二十億光年の孤独」	<ul style="list-style-type: none"> <li>詩に使われる言葉が何を象徴しているかを考え、読み深める。</li> <li>対句や比喩、リフレイン等の特徴的表現に着目し、その効果について考える。</li> <li>詩に込められた作者の思いを理解し、人生や社会について考える端緒とする。</li> </ul>	定期考査の成績、補助プリントや課題等の提出状況、授業への取り組みなどで総合的に評価する。	中
5	随想 日々の思い 「徒然草」 亀山殿の御池に	<ul style="list-style-type: none"> <li>古文の表現に慣れ、作者の考えを読み取る。</li> <li>本文を正しく音読し、適切に口語訳する。</li> <li>作者の考えを踏まえて、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。</li> </ul>	定期考査の成績、補助プリントや課題等の提出状況、授業への取り組みなどで総合的に評価する。	間
6	働くということ 「鍋洗いの日々」	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の道を切り開いた筆者の体験談から、仕事に対する思いを読み取る。</li> <li>職業について見聞きしたことをまとめて発表し、働くことに対する理解を深める。</li> </ul>	定期考査の成績、補助プリントや課題等の提出状況、授業への取り組みなどで総合的に評価する。	期
7	唐詩 唐詩を味わう 「唐詩 一 八首」	<ul style="list-style-type: none"> <li>唐詩（近体詩）のきまりと特徴を理解する。</li> <li>漢文を繰り返し音読し、優れた表現に親しむ。</li> <li>漢詩にうたわれた情景を読み取り、作者の心情を味わう。</li> </ul>	定期考査の成績、補助プリントや課題等の提出状況、授業への取り組みなどで総合的に評価する。	末
1 学期授業週数		1 2		

2 学期				
月	学習項目 (単元名)	学習のねらい (内容)	評価方法	考查範囲
9	短歌・俳句 「その子二十」 「春風や」	<ul style="list-style-type: none"> <li>俳句の特徴と表現効果を理解し、俳句に詠まれた情景や心情を読み取る。</li> <li>俳句のきまりと表現方法を理解して俳句を創作する。</li> <li>相互に評価し、ものの見方や感じ方を豊かにする。</li> </ul>	定期考査の成績、補助プリントや課題等の提出状況、授業への取り組みなどで総合的に評価する。	中
10	物語 「伊勢物語」 芥川	<ul style="list-style-type: none"> <li>「歌物語」の特質と和歌の役割を理解し、和歌の解釈を踏まえて、登場人物の状況や心情を読み取る。</li> <li>和歌の修辞技巧についての理解を深める。</li> </ul>	定期考査の成績、補助プリントや課題等の提出状況、授業への取り組みなどで総合的に評価する。	間

11	小説 「沖繩の手記から」	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な小説を読んで、読書の幅を広げ、豊かな感性を養う。</li> <li>戦争の中に生きる登場人物の生き方や、考え方を捉え、人間の生と死について考えを深める。</li> </ul>	定期考査の成績、補助プリントや課題等の提出状況、授業への取り組みなどで総合的に評価する。	期 末
12	故事—三編 「借虎威」	<ul style="list-style-type: none"> <li>本文を正しく訓読し、書き下し文に改める。</li> <li>漢文特有の句法（禁止形・使役形・反語形）の意味や用法を理解する。</li> </ul>		
2 学期授業週数		1 5		

3 学期				
月	学習項目 (単元名)	学習のねらい (内容)	評価方法	考查範囲
1	評論 2 「真の自立とは」	<ul style="list-style-type: none"> <li>「自立」の在り方について考察する評論を読んで、筆者の主張を把握し、それに対する自分の意見を書く。</li> </ul>	定期考査の成績、補助プリントや課題等の提出状況、授業への取り組みなどで総合的に評価する。	学 年 末
2	物語 古人の生き方 「平家物語」 木曾の最期	<ul style="list-style-type: none"> <li>物語に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み取る。</li> <li>想像力をはたらかせながら、物語の世界を読み味わう。</li> </ul>		
3				
3 学期授業週数		8	年間授業週数	3 5

### ◎評価の観点及び内容

関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>言葉に関心を持ち国語を尊重し、その向上に努めているか。</li> <li>進んで課題に取り組み、日常の言語生活に生かそうとしているか。</li> </ul>
話す・聞く能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手の立場や考えを尊重して聞くことができるか。</li> <li>目的や場に応じた言葉遣いの工夫がなされているか。</li> </ul>
書く能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>考えを論理的に述べるための情報収集、整理に努めているか。</li> <li>表現技巧について吟味し、表現の推敲に役立てているか。</li> </ul>
読む能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>積極的に文章を読み、筆者や作中人物の考えや主張を読み取ることができるか。</li> </ul>
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>現代社会の諸問題について、自己の問題として捉え、考えているか。</li> <li>古典の時代背景や文化などについて理解を深めているか。</li> </ul>

# 令和4年度年間指導計画（シラバス）

教科名	国語	科目名	国語総合	教科書	新編国語総合 (2 東書国総 332)	学年組	第2学年 26H・27H	単位数	3
年間目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めさせる。</li> <li>思考力を伸ばし心情を豊かにし、言語感覚を磨かせる。</li> <li>言語文化に対する関心を深め、現代の文章や古典を読み、読書に親しむ態度を身につけさせる。</li> </ul>								

## 1 学期

月	学習項目 (単元名)	学習のねらい (内容)	評価方法	考查範囲	
4	詩 言葉がひらく世界 「空をかついで」 「二十億光年の孤独」 随想 日々の思い 「徒然草」	<ul style="list-style-type: none"> <li>詩に使われる言葉が何を象徴しているかを考え、読み深める。</li> <li>対句や比喻、リフレイン等の特徴的表現に着目し、その効果について考える。</li> <li>詩に込められた作者の思いを理解し、人生や社会について考える端緒とする。</li> </ul>	定期考査の成績、補助プリントや課題等の提出状況、授業への取り組みなどで総合的に評価する。	中間	
5	亀山殿の御池に 奥山に猫またと〜	<ul style="list-style-type: none"> <li>古文の表現に慣れ、作者の考えを読み取る。</li> <li>本文を正しく音読し、適切に口語訳する。</li> <li>作者の考えを踏まえて、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。</li> <li>助動詞、助詞についての理解を深める。</li> </ul>			
6	働くということ 「鍋洗いの日々」	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の道を切り開いた筆者の体験談から、仕事に対する思いを読み取る。</li> <li>職業について見聞きしたことをまとめて発表し、働くことに対する理解を深める。</li> </ul>	定期考査の成績、補助プリントや課題等の提出状況、授業への取り組みなどで総合的に評価する。	期末	
7	唐詩 唐詩を味わう 「唐詩 一 八首」	<ul style="list-style-type: none"> <li>唐詩（近体詩）のきまりと特徴を理解する。</li> <li>漢文を繰り返し音読し、優れた表現に親しむ。</li> <li>漢詩にうたわれた情景を読み取り、作者の心情を味わう。</li> </ul>			
1 学期授業週数		1 2			

## 2 学期

月	学習項目 (単元名)	学習のねらい (内容)	評価方法	考查範囲
9	短歌・俳句 「その子二十」 「春風や」	<ul style="list-style-type: none"> <li>俳句の特徴と表現効果を理解し、俳句に詠まれた情景や心情を読み取る。</li> <li>俳句のきまりと表現方法を理解して俳句を創作する。</li> <li>相互に評価し、ものの見方や感じ方を豊かにする。</li> </ul>	定期考査の成績、補助プリントや課題等の提出状況、授業への取り組みなどで総合的に評価する。	中間
10	物語 「伊勢物語」 芥川 筒井筒	<ul style="list-style-type: none"> <li>「歌物語」の特質と和歌の役割を理解し、和歌の解釈を踏まえて、登場人物の状況や心情を読み取る。</li> <li>和歌の修辞技巧についての理解を深める。</li> <li>助動詞、助詞についての理解を深める。</li> </ul>		

11	小説 「沖縄の手記から」	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な小説を読んで、読書の幅を広げ、豊かな感性を養う。</li> <li>戦争の中に生きる登場人物の生き方や、考え方を捉え、人間の生と死について考えを深める。</li> </ul>	定期考査の成績、補助プリントや課題等の提出状況、授業への取り組みなどで総合的に評価する。	期末	
12	故事 「借虎威」  史話 「王昭君」	<ul style="list-style-type: none"> <li>本文を正しく訓読し、書き下し文に改める。</li> <li>漢文特有の句法（禁止形・使役形・反語形）の意味や用法を理解する。</li> <li>語句や漢文特有の句法の意味や用法を理解し、話の展開に即して、内容を正確に読み取る。</li> <li>登場人物の生き方や考え方を読み取り、史話のおもしろさを味わう。</li> </ul>			
2 学期授業週数		1 5			

## 3 学期

月	学習項目 (単元名)	学習のねらい (内容)	評価方法	考查範囲	
1	評論 2 「真の自立とは」	<ul style="list-style-type: none"> <li>「自立」の在り方について考察する評論を読んで、筆者の主張を把握し、それに対する自分の意見を書く。</li> </ul>	定期考査の成績、補助プリントや課題等の提出状況、授業への取り組みなどで総合的に評価する。	学年末	
2	物語 古人の生き方 「平家物語」 木曾の最期	<ul style="list-style-type: none"> <li>物語に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み取る。</li> <li>想像力をはたらかせながら、物語の世界を読み味わう。</li> <li>敬語についての理解を深める。</li> </ul>			
3					
3 学期授業週数		8	年間授業週数	3 5	

## ◎評価の観点及び内容

関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>言葉に関心を持ち国語を尊重し、その向上に努めているか。</li> <li>進んで課題に取り組み、日常の言語生活に生かそうとしているか。</li> </ul>
話す・聞く能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手の立場や考えを尊重して聞くことができるか。</li> <li>目的や場に応じた言葉遣いの工夫がなされているか。</li> </ul>
書く能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>考えを論理的に述べるための情報収集、整理に努めているか。</li> <li>表現技巧について吟味し、表現の推敲に役立てているか。</li> </ul>
読む能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>積極的に文章を読み、筆者や作中人物の考えや主張を読み取ることができるか。</li> </ul>
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>現代社会の諸問題について、自己の問題として捉え、考えているか。</li> <li>古典の時代背景や文化などについて理解を深めているか。</li> </ul>

# 令和4年度年間指導計画（シラバス）

教科名	地理歴史	科目名	世界史 A	教科書	新版世界史 A 新訂版 実教出版 (7 実教 世 A312)	学年組	21~27H	単位数	2
年間目標	1 近現代史を中心とする世界の歴史を諸資料に基づき日本の歴史と関連付けながら理解させる。 2 現代の諸課題を歴史的観点から考察させることによって、歴史的思考力を培う。 3 国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。								

1 学期									
月	学習項目 (単元名)	学習のねらい (内容)	評価方法	考查範囲					
4	第 I 部 ユーラシアの諸文明 第 1 章 ユーラシアの諸文明と交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>東アジアの自然環境と諸民族、漢字文化、儒教、中国を中心とする国際体制に触れ、日本を含む東アジア世界の特質をとらえさせる。</li> <li>南アジアの自然環境と諸民族、仏教の成立、ヒンドゥー教とカースト制度、イスラームの影響に触れ、南アジア世界の特質を把握させる。</li> <li>ヨーロッパの自然環境と諸民族、封建社会の成立、キリスト教などに触れ、ヨーロッパ世界の特質を把握させる。</li> </ul>	授業への取り組み方、提出物および考查の結果を総合的に判断する。	中					
5	中間考查の実施と学習内容の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>中間考查後、解答の復習を行い、知識の定着を促す。</li> </ul>		間					
6	第 II 部 一体化する世界と日本 第 2 章 一体化に向かう世界と日本	<ul style="list-style-type: none"> <li>大航海時代のヨーロッパとアフリカ、アメリカ、アジアの接触と交流、アジアの諸帝国とヨーロッパの主権国家体制、大西洋世界の展開とアフリカ・アメリカ社会の変容を扱い、16 世紀から 18 世紀までの世界の一体化の動きと近世の日本の対応を理解させる。</li> </ul>	授業への取り組み方、提出物および考查の結果を総合的に判断する。	期					
7	期末考查の実施と学習内容の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>期末考查後、解答の復習を行い、知識の定着を促す。</li> </ul>		末					
1 学期授業週数		1 2							

2 学期									
月	学習項目 (単元名)	学習のねらい (内容)	評価方法	考查範囲					
9	第 3 章 ヨーロッパ・アメリカの諸革命と世界の変動	<ul style="list-style-type: none"> <li>産業革命と資本主義の確立、フランス革命とアメリカ諸国の独立、自由主義と国民主義の進展を扱い、ヨーロッパ・アメリカにおける工業化と国民形成を理解させる。</li> <li>ヨーロッパの進出期におけるアジア諸国の状況、植民地化や従属化の過程での抵抗と挫折、伝統文化の変容、そのなかでの日本の動向を扱い、19 世紀の世界の一体化と日本の近代化を理解させる。</li> </ul>	授業への取り組み方、提出物および考查の結果を総合的に判断する。	中					
10	中間考查の実施と学習内容の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>中間考查後、解答の復習を行い、知識の定着を促す。</li> </ul>		間					

11	第 III 部 地球社会と日本 第 4 章 現代世界のあゆみ	<ul style="list-style-type: none"> <li>科学技術の発達、企業や国家の巨大化、公教育の普及と国民統合、国際的な移民の増加、マスメディアの発達、社会の大衆化と政治や文化の受容などを理解させ、19 世紀後期から 20 世紀前半までの社会の変化について、人類史的視野から考察させる。</li> <li>帝国主義諸国の抗争とアジア・アフリカの対応、二つの世界大戦の原因と総力戦としての性格、それらが世界と日本に及ぼした影響を理解させ、19 世紀後期から 20 世紀前半までの世界の動向と平和の意義について考察させる。</li> </ul>	授業への取り組み方、提出物および考查の結果を総合的に判断する。	期					
12	期末考查の実施と学習内容の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>期末考查後、解答の復習を行い、知識の定着を促す。</li> </ul>		末					
2 学期授業週数		1 5							

3 学期									
月	学習項目 (単元名)	学習のねらい (内容)	評価方法	考查範囲					
1	第 5 章 第二次世界大戦後の世界	<ul style="list-style-type: none"> <li>第二次世界大戦後の米ソ両陣営の対立と日本の動向、アジア・アフリカの民族運動と植民地支配からの独立を理解させ、核兵器問題やアジア・アフリカ諸国が抱える問題などについて考察させる。</li> <li>1970 年代以降の市場経済のグローバル化、冷戦の終結、地域統合の進展、知識基盤社会への移行、地域紛争の頻発、環境や資源・エネルギーをめぐる問題などを理解させ、地球社会への歩みと地球規模で深刻化する課題について考察させる。</li> </ul>	授業への取り組み方、提出物および考查の結果を総合的に判断する。	学					
2	学年末考查の実施と学習内容の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年末考查では、1 年間の学習で興味・関心を深めたことについて学習内容をまとめる。</li> </ul>		年					
3	3 学期授業週数	8							
年間授業週数		3 5							

## ◎評価の観点及び内容

関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>近現代史を中心とする世界の歴史に対する関心を高め、意欲的に追究しているか。</li> <li>ノートの整理・工夫に意欲的であるか。授業の中で積極的に発言をしているか。</li> </ul>
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>近現代史を中心とする世界の歴史を、日本の歴史と関連付けて、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現しているか。</li> </ul>
資料活用の技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>近現代史を中心とする世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしているか。</li> <li>地図から必要事項を読み取ることができるか</li> </ul>
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>近現代史を中心とする世界の歴史についての基本的な事柄を、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身につけているか。</li> <li>国際環境がめまぐるしく変わる現代において国際社会に生きる日本人として、世界の歴史を正しく理解できたか。</li> </ul>

## 令和4年度年間指導計画（シラバス）

教科名	数学	科目名	数学 I	教科書	新編 数学 I (2 東書 数 I 302)	学年組	2 年 6～7 組	単位数	2
年間目標	1 方程式と不等式、二次関数及び図形と計量について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを的確に活用する能力を身に付ける。 2 数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。								

### 1 学期

月	学習項目 (単元名)	学習のねらい (内容)	評価方法	考查範囲
4	3 章 2 次関数 2 節 2 次方程式と 2 次不等式	2 次関数のグラフと x 軸の共有点の x 座標が 2 次方程式の解である。また、2 次関数のグラフと x 軸の位置関係を利用して 2 次不等式を解く。	定期考査の成績、小テスト、プリントなどの提出物の内容などで評価する。	中 間
5				
6	4 章 図形と計量 1 節 鋭角の三角比	直角三角形の辺と角の関係を用いて、鋭角の正弦、余弦、正接の意味を理解する。	定期考査の成績、小テスト、プリント、授業ノート、宿題ノートなどの提出物の内容、学習に対する意欲や授業態度などで評価する。	期 末
7				
1 学期授業週数		1 2		

### 2 学期

月	学習項目 (単元名)	学習のねらい (内容)	評価方法	考查範囲
9	2 節 三角比の拡張	座標を用いて、鈍角にまで角を拡張して、三角比を定義する。	定期考査の成績、小テスト、プリントなどの提出物の内容などで評価する。	中 間
10				

11	3 節 三角形への応用	正弦定理、余弦定理を用いて、三角形の辺の長さや、角の大きさ、面積などが求まることを学ぶ。	定期考査の成績、小テスト、プリント、授業ノート、宿題ノートなどの提出物の内容、学習に対する意欲や授業態度などで評価する。	期 末
12				
2 学期授業週数		1 5		

### 3 学期

月	学習項目 (単元名)	学習のねらい (内容)	評価方法	考查範囲
1	5 章 データの分析 1 節 データの整理と分 析	自然現象や実社会には、互いに関連すると考えられる数量がたくさんある。それらの数量の関係を、表や、図に表すことにより将来の予測に役立てることができる。	定期考査の成績、小テスト、プリント、授業ノート、宿題ノートなどの提出物の内容、学習に対する意欲や授業態度などで評価する。	学 年 末
2	2 節 データの相関	2 つの変量の間一方が増加すれば、他方が増加する傾向にあるとき正の相関があるという。一方が増加すれば、他方が減少する傾向にあるとき負の相関があるという。		
3				
3 学期授業週数		8	年間授業週数	3 5

### ◎評価の観点及び内容

関心・意欲・態度	数学的活動を通して学習内容に関心を持ち、課題に取り組もうとする意欲や態度をもっているか。
数学的な見方や考え方	数学的活動を通して既習内容における数学的な見方や考え方を身に付けたか。
数学的な技能	既習内容において、事象を数学的に考察し、処理の仕方や推論の方法を身に付け、よりよく問題を解決することができるか。
知識・理解	既習内容における原理・原則、基本的な概念、用語及び記号などを理解し、基礎的な知識を身に付けたか。

# 令和4年度年間指導計画（シラバス）

教科名	理科	科目名	化学基礎	教科書	7実教 化基317 高校化学基礎 新訂版	学年組	21,22,23,24,25H	単位数	2
年間目標	1 日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高める。 2 目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探求する能力と態度を育てる。 3 化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。								

## 1 学期

月	学習項目 (単元名)	学習のねらい(内容)	評価方法	考查範囲	
4	序章 化学と人間生活 物質の製造 物質の利用 物質の性質と役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活や社会を支える物質の利用とその製造の例を通して、化学に対する興味・関心を高める。</li> <li>日常生活や社会において物質が適切に使用されている例を通して、化学が果たしている役割を理解する。</li> </ul>	授業への取り組み方、提出物および考査の結果を総合的に判断する。	中  間	
5	1章 物質と化学結合 1節 物質の探究 2節 物質の構成粒子	<ul style="list-style-type: none"> <li>元素、混合物、単体、化合物について理解する。</li> <li>物質の三態と熱運動について理解する。</li> <li>原子の構造、同位体、原子の電子配置について理解する。</li> <li>イオンの電子配置について理解する。</li> <li>原子のイオン化エネルギーと電子親和力を理解する。</li> <li>周期律と周期表について理解する。</li> </ul>			
6	2章 物質と化学結合 1節 イオン結合 2節 共有結合	<ul style="list-style-type: none"> <li>イオンの生成を電子配置と関連付けて理解する。</li> <li>イオン結合及びイオン結合でできた物質の性質を理解する。</li> <li>共有結合を電子配置と関連付けて理解する。</li> <li>分子からなる物質の性質を理解する。</li> <li>金属結合と金属の性質を理解する。</li> <li>結合様式の異なる物質の性質と化学結合の関係について理解する。</li> </ul>	授業への取り組み方、提出物および考査の結果を総合的に判断する。	期  末	
7	3節 金属結合 4節 粒子の結合と結晶				
1 学期授業週数		1 2			

## 2 学期

月	学習項目 (単元名)	学習のねらい(内容)	評価方法	考查範囲
9	3章 物質の変化 1節 物質と化学反応式	<ul style="list-style-type: none"> <li>原子量、分子量、式量について理解する。</li> <li>物質と粒子数、質量、気体の体積との関係について理解する。</li> <li>溶液の濃度の表し方を理解する。</li> <li>化学反応式は化学反応に関与する物質とその量的関係を表すことを理解する。</li> </ul>	授業への取り組み方、提出物および考査の結果を総合的に判断する。	中  間
10				

11	2節 酸と塩基	<ul style="list-style-type: none"> <li>酸、塩基の定義とその水溶液や性質について理解する。</li> <li>pHについて理解する。</li> <li>中和反応と塩の性質について理解する。</li> <li>酸と塩基が中和するときの量的関係や中和滴定の操作を理解する。</li> <li>塩の定義と分類の方法、塩の水溶液の性質を理解する。</li> </ul>	授業への取り組み方、提出物および考査の結果を総合的に判断する。	期  末	
12					
2 学期授業週数		1 5			

## 3 学期

月	学習項目 (単元名)	学習のねらい(内容)	評価方法	考查範囲	
1	3節 酸化還元反応	<ul style="list-style-type: none"> <li>酸化と還元が電子の授受によることを理解する。</li> <li>酸化還元反応と日常生活や社会とのかかわりについて理解する。</li> </ul>	授業への取り組み方、提出物および考査の結果を総合的に判断する。	学  年  末	
2					
3					
3 学期授業週数		8	年間授業週数	3 5	

## ◎評価の観点及び内容

関心・意欲・態度	自然の事物・現象に関心や探求心を持ち、意欲的にそれらを探求しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。
思考・判断・表現	自然の事物・現象の中に問題を見だし、探求する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。
観察・実験の技能	観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探求する技能を身に付けている。
知識・理解	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

# 令和4年度年間指導計画（シラバス）

教科名	理科	科目名	生物基礎	教科書	104数研 生基 317 改訂版新編 生物基礎	学年組	26, 27H	単位数	2
年間目標	1 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 2 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 3 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。								

## 1学期

月	学習項目 (単元名)	学習のねらい(内容)	評価方法	考查範囲		
4	第1章 生物の特徴 1節 生物の多様性と共通性	<ul style="list-style-type: none"> <li>生物は多様でありながら、共通性があることを理解する。</li> <li>生物の共通性の由来を理解する。</li> </ul>	授業への取り組み方、提出物および考查の結果を総合的に判断する。	中 間		
	2節 エネルギーと代謝 3節 光合成と呼吸	<ul style="list-style-type: none"> <li>生物に共通する特徴のうち、すべての生物が細胞から成り立っていることを理解する。</li> <li>細胞が独自の機能をもついろいろな細胞小器官から成り立っていることを学習する。</li> <li>原核細胞と真核細胞の基本的な違いについて学習する。</li> <li>単細胞生物と多細胞生物の存在を考察させ、からだを構成する細胞は一樣ではないことを理解する。</li> </ul>				
	5	第2章 遺伝子とそのはたらき 1節 遺伝情報とDNA			<ul style="list-style-type: none"> <li>DNAの構造や性質を、研究史とともに学習する。</li> <li>DNA、遺伝子、ゲノムの関係性を理解する。</li> </ul>	
6	2節 遺伝情報の発現 3節 遺伝情報の分配	<ul style="list-style-type: none"> <li>DNAが体細胞分裂の際に、複製され質・量ともに均等に分配されることにより遺伝情報が伝えられることを理解する。</li> <li>DNAの複製は細胞周期の間期に行われることを学習する。</li> <li>生命現象にはタンパク質が関わっており、それらがDNAの遺伝情報に基づいて合成されることを理解する。</li> <li>体内環境が一定の範囲に保たれていることを理解する。</li> </ul>			7	期 末
	1学期授業週数	12				

## 2学期

月	学習項目 (単元名)	学習のねらい(内容)	評価方法	考查範囲
9	第3章 生物の体内環境とその維持 1節 体内環境としての体液	<ul style="list-style-type: none"> <li>体液濃度の調節により、体内環境が保たれていることを理解する。その際、血液凝固や腎臓の塩類濃度調節について触れる。</li> </ul>	授業への取り組み方、提出物および考查の結果を総合的に判断する。	中 間
	2節 腎臓と肝臓による調節 3節 神経とホルモンによる調節	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヒトの血糖量や体温の調節が、自律神経とホルモンの作用により一定の範囲に保たれていることを理解する。</li> <li>調節のしくみについて理解させる際、調節ができなくなったときに発症する疾患についても触れる。</li> </ul>		
	10	2学期授業週数		

11	4節 免疫	<ul style="list-style-type: none"> <li>細胞が病原体の侵入を防ぐために、異物を認識し、排除するしくみを理解する。</li> <li>免疫に関わる細胞について取り上げ、体液性免疫や細胞性免疫について理解する。</li> <li>ヒトの身近な免疫疾患について学習する。</li> </ul>	授業への取り組み方、提出物および考查の結果を総合的に判断する。	期 末	
	12	第4章 植生の多様性と分布 1節 植生とその成り立ち 2節 植生の移り変わり 3節 気候とバイオーム			<ul style="list-style-type: none"> <li>陸上には、草原や森林などの様々な植生があることを学習する。</li> <li>植生は不変ではなく、光の量や植生をとり巻く環境から影響を受けて変化していくことを理解する。</li> <li>環境形成作用により土壌が形成されることで遷移が進行することを学習する。</li> <li>バイオームの構成要素である植物種を取り上げ、その場所の気温や降水量に適応していることを理解する。</li> </ul>
	2学期授業週数	15			

## 3学期

月	学習項目 (単元名)	学習のねらい(内容)	評価方法	考查範囲	
1	第5章 生態系とその保全 1節 生態系とその成り立ち	<ul style="list-style-type: none"> <li>生態系の成り立ち、生態系における物質循環とエネルギーの流れについて理解する。</li> </ul>	授業への取り組み方、提出物および考查の結果を総合的に判断する。	学 年 末	
	2	2節 物質の循環とエネルギーの流れ 3節 生態系のバランスと保全			<ul style="list-style-type: none"> <li>生態系において物質が循環すること、およびそれに伴ってエネルギーが移動することを理解する。</li> <li>炭素循環および窒素循環の過程を理解する。</li> <li>生態系のバランスについて学習する。</li> <li>生態系の保全の重要性について認識する。</li> </ul>
	3	3学期授業週数			8

## ◎評価の観点及び内容

関心・意欲・態度	自然の事物・現象に関心や探求心を持ち、意欲的にそれらを探求しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。
思考・判断・表現	自然の事物・現象の中に問題を見だし、探求する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。
観察・実験の技能	観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探求する技能を身に付けている。
知識・理解	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。



## 令和4年度年間指導計画（シラバス）

教科名	保健体育	科目名	体育	教科書	アクティブスポーツ 2021	学年組	2年全女子	単位数	2
年間目標	(1) 各種の運動の合理的な実践を通して、課題を解決するなどにより運動の楽しさや喜びを味わうとともに運動技能を高めることができるようにし、生活を明るく健全にする態度を育てる。 (2) 各種の運動を適切に行うことによって、自己の体の変化に気付き体の調子を整えるとともに、体力の向上を図り、たくましい心身を育てる。 (3) 運動における競争や協同の経験を通して、公正な態度や、進んで規則を守り互いに協力して責任を果たすなどの態度を育てる。また、健康・安全に留意して運動をすることができる態度を育てる。								

### 1 学期

月	学習項目 (単元名)	学習のねらい(内容)	評価方法	考查範囲			
4	体育理論 体づくり運動 集団行動	自己の体力や生活に応じて、体の調子を整えるなどの体ほぐしの運動を中心に行わせる。 体力を高める運動も行い、体力の向上を目指させる。また、自己の生活の中で計画的に実践していく資質や能力を身に付けさせる。走跳投の理想的な技術を理解し、実践をとおして個人の記録向上を目指させる。 球技では、集団的技能や個人的技能を發揮し、攻撃と防御を展開し勝敗を争うことの中から、作戦を立てたり工夫をすることの楽しさや喜びを体験させる。	1 スポーツテストの記録、実施種目のスキルテスト(授業中に実施)、授業への参加の仕方や態度で評価する。 2 学期全体の評価は、主にスキルテスト40%、スポーツテスト記録30%、授業への参加の仕方や態度などで30%程度の配分で行う。				
5	陸上競技 スポーツテスト						
6	バスケットボール ソフトボール						
7	柔道 剣道 より1種目選択						
1 学期授業週数					12		

### 2 学期

月	学習項目 (単元名)	学習のねらい(内容)	評価方法	考查範囲
9	体育理論 体づくり運動 集団行動	球技では、集団的技能や個人的技能を發揮し、攻撃と防御を展開し勝敗を争うことの中から、作戦を立てたり工夫をすることの楽しさや喜びを体験させる。 ダンスでは表現したい内容や動きを変化発展させ仲間と協力し、テーマにふさわしい作品づくりを工夫する楽しさや喜びを体験させる。	1 実施種目のスキルテスト(授業中に実施)、授業への参加の仕方や態度で評価する。 2 学期全体の評価は、主にスキルテスト60%、授業への参加の仕方や態度などで40%程度の配分で行う。	
10	バレーボール ビーチボール ソフトボールより			
11	柔道 剣道			
12	ダンス より2種目選択			
2 学期授業週数				

### 3 学期

月	学習項目 (単元名)	学習のねらい(内容)	評価方法	考查範囲
1	体育理論 体づくり運動	集団的技能や個人的技能を發揮し、攻撃と防御を展開し勝敗を争うことの中から、作戦を立てたり工夫をすることの楽しさや喜びを体験させる。	1 実施種目のスキルテスト(授業中に実施)、授業への参加の仕方や態度で評価する。 2 学期全体の評価は、主にスキルテスト60%、授業への参加の仕方や態度などで40%程度の配分で行う。	
2	バドミントン バスケットボール			
3	柔道 剣道 より1種目選択			
3 学期授業週数		8	年間	35

### ◎評価の観点及び内容

関心・意欲・態度	自ら進んで運動の楽しさや喜びを体得しようとする。また、公正、協力、責任などの態度を身に付けるとともに、健康・安全に留意して運動をしようとする。
思考・判断	運動の特性に応じて、自己やグループの能力に適した課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫している。
運動の技能	自己の能力に適した課題の解決を目指して運動を行うとともに、運動の特性に応じた技能を身に付けている。また、自己の体力や生活に応じて体力を高めるための運動の合理的な行い方を身に付けている。
知識・理解	運動の特性と学び方、安全の確保の仕方、生活における運動の意義、体ほぐし・体力の意義及び運動の心身にわたる効果に関する基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。

## 令和4年度年間指導計画（シラバス）

教科名	保健体育	科目名	体育	教科書	アクティブスポーツ 2021	学年組	2年全男子	単位数	2
年間目標	(1) 各種の運動の合理的な実践を通して、課題を解決するなどにより運動の楽しさや喜びを味わうとともに運動技能を高めることができるようにし、生活を明るく健全にする態度を育てる。 (2) 各種の運動を適切に行うことによって、自己の体の変化に気付き体の調子を整えるとともに、体力の向上を図り、たくましい心身を育てる。 (3) 運動における競争や協同の経験を通して、公正な態度や、進んで規則を守り互いに協力して責任を果たすなどの態度を育てる。また、健康・安全に留意して運動をすることができる態度を育てる。								

### 1 学期

月	学習項目 (単元名)	学習のねらい (内容)	評価方法	考查範囲			
4	体育理論 体づくり運動 集団行動	自己の体力や生活に応じて、体の調子を整えるなどの体ほぐしの運動を中心に行わせる。 体力を高める運動も行い、体力の向上を目指させる。 また、自己の生活の中で計画的に実践していく資質や能力を身に付けさせる。 ボールなどを用いて、集団的技能や個人的技能を発揮し、攻撃と防御を展開し勝敗を争うことから、作戦を立てたり工夫をすることの楽しさや喜びを体験させる。 また、武道では伝統的な行動の仕方を重視しながら、相手の動きに対応した攻防を展開して練習や試合を安全に留意して行わせる。	1 スポーツテストの記録、実施種目のスキルテスト (授業中に実施)、授業への参加の仕方や態度で評価する。 2 学期全体の評価は、主にスキルテスト40%、スポーツテスト記録30%、授業への参加の仕方や態度などで30%程度の配分で行う。				
5	陸上競技						
6	バレーボール 柔道 剣道 より1種目選択						
7	スポーツテスト						
1 学期授業週数					12		

### 2 学期

月	学習項目 (単元名)	学習のねらい (内容)	評価方法	考查範囲
9	体育理論 体づくり運動	ボールなどを用いて、集団的技能や個人的技能を発揮し、攻撃と防御を展開し勝敗を争うことから、作戦を立てたり工夫をすることの楽しさや喜びを体験させる。 また、武道では伝統的な行動の仕方を重視しながら、相手の動きに対応した攻防を展開して練習や試合を安全に留意して行わせる。	1 実施種目のスキルテスト (授業中に実施)、授業への参加の仕方や態度で評価する。 2 学期全体の評価は、主にスキルテスト60%、授業への参加の仕方や態度などで40%程度の配分で行う。	
10	ソフトボール サッカー バスケットボール			
11	柔道 剣道 ダンス			
12	より2種目選択			
2 学期授業週数				

### 3 学期

月	学習項目 (単元名)	学習のねらい (内容)	評価方法	考查範囲
1	体育理論 体づくり運動	ボールなどを用いて、集団的技能や個人的技能を発揮し、攻撃と防御を展開し勝敗を争うことから、作戦を立てたり工夫をすることの楽しさや喜びを味わいます。 また、武道では伝統的な行動の仕方を重視しながら、相手の動きに対応した攻防を展開して練習や試合を安全に留意して行わせる。	1 実施種目のスキルテスト (授業中に実施)、授業への参加の仕方や態度で評価する。 2 学期全体の評価は、主にスキルテスト60%、授業への参加の仕方や態度などで40%程度の配分で行う。	
2	バスケットボール バドミントン 柔道 剣道			
3	より1種目選択			
3 学期授業週数		8	年間	35

### ◎評価の観点及び内容

関心・意欲・態度	自ら進んで運動の楽しさや喜びを体得しようとする。また、公正、協力、責任などの態度を身に付けるとともに、健康・安全に留意して運動をしようとする。
思考・判断	運動の特性に応じて、自己やグループの能力に適した課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫している。
運動の技能	自己の能力に適した課題の解決を目指して運動を行うとともに、運動の特性に応じた技能を身に付けている。また、自己の体力や生活に応じて体力を高めるための運動の合理的な行い方を身に付けている。
知識・理解	運動の特性と学び方、安全の確保の仕方、生活における運動の意義、体ほぐし・体力の意義及び運動の心身にわたる効果に関する基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。